

<b>論文の和文要旨</b>	
<b>論文題目</b>	ネパールのパルパ (Palpa) 郡のコミュニティ・フォレストリー 地域社会におけるコミュニティ・フォレストリーとその影響
<b>氏名</b>	バタライ ビノド BHATTARAI BINOD

本研究はネパールのパルパ郡におけるコミュニティ・フォレストリーとその地域社会への影響についての研究である。コミュニティ・フォレストリー (Community Forestry: CF、以下 CF) とは、地域コミュニティによって森林の維持・管理が行われることを指す。ネパールでは、1957年に森林のほとんどが国有化され、国家により維持・管理されることになった。しかし、国有化によって様々な問題が生じたため、それを解決するために、実際に森林を利用する団体 (Community Forest User Group: CFUG、以降 CFUG) が意思決定者となって自ら森林の維持・管理を行う体制への移行が図られた。その結果、ネパール各地で多くのコミュニティ・フォレストが生まれることになったのである。

### 本論文の概要

まず、第1章では本研究の背景と目的を述べた。本章では簡単にネパールの紹介をし、人口と森林の関係について述べた。ネパールは農業国であり、国内総生産の34%以上は農業生産であり、人口の約68%が農業活動に従事している。森林資源は、国家経済と農村の生活に大きく貢献している。森林は、木材、薪、飼料、さらにハーブなどの非木材林産物の重要な供給源である。燃料としての薪は、国内の総エネルギー消費量の85%以上を占めている。本研究は、ネパールの典型的な (平野部と山間部の) 中間地域の村落におけるコミュニティの森林管理プログラムを理解することを目指した。

第2章では まず、ネパールにおけるコミュニティ・フォレストリーについての

先行研究を概観した。コミュニティ・フォレストの導入については、概ね好意的に評価されており、以下のような点が指摘されている。

1. ネパールは、強い法的拘束力の下、コミュニティフォレスティを最も早く開始した国の一つである。
2. 現在ネパールの人口の35%がコミュニティフォレストに関与している。
3. ネパールのCFUGは、村落のすべての家族をつなぎ、環境保護と生活の向上の両立をめざして設立された団体であり、実際にメンバーの暮らしの質が向上しており、乱開発から森林を守ることに成功している。
4. このような成功は、森林の適切な管理と森林資源の公平な分配が性別やカーストによらない意志決定体制、公平な責任体制によって支えられているからである。

しかし、一方で、次のような問題点も指摘されている。

1. 一部で不公平な森林資源の分配がみられる。
2. CFUGの実行委員会において、村落の中で社会的・経済的に恵まれていない層からの代表者が不足しており、必ずしも公平な意志決定が行われているとはいえない。

また、他の地域に比べ、Palpa 地方のような、山の中腹に存在する地域では、コミュニティ・フォレストの研究が不足している。

そこで、この研究では、CFUGのメンバーがコミュニティ・フォレストから得られる利益の共有の問題を取り上げ、下位カーストの人々を中心とした社会的・経済的に恵まれていない層とコミュニティ・フォレストとの関わりについて焦点をあてながら、3つのコミュニティ・フォレストを事例として、コミュニティ・フォレストの開発、森林管理への人々の参加状況、森林資源の分配について分析を行うことにした。

続いて、ネパールにおける森林管理と森林規制の変遷について紹介した。

17 世紀のネパール王国の成立以来、ネパールの森林は原則としてネパール王が所有するものとされていしたが、歴代のネパール王は新たに開墾された農地に対する課税上の優遇措置を導入することによって、森林の農地化を進めた。また、19 世紀に入ると、イギリスの東インド会社がネパール南部の平野部（tarai）の森林開発を進め、森林の減少が一気に進んだ。

第3章では、コミュニティ・フォレストリーの形成と実施について説明した。コミュニティ森林形成のプロセスは森林規制法（1995年）とCF開発ガイドライン（2009年）では、CFへの委譲（つまり使用権利の引き渡し）のプロセスが記述されている。

第4章では、研究方法について説明した。筆者は調査地として、パルパ地区の3つのコミュニティ・フォレストを選択した。一次データ収集では、直接観察、個人インタビュー、グループディスカッションを行った。さらに、アンケートを作成し、3つのコミュニティ・フォレストのユーザーグループのメンバーに配布した。二次データとしては、事務所の記録、レポート、統計を収集した。以下が、本研究の主な焦点である。

- 1) マダン・ポカラ（Madanpokhara）村パルパ（Palpa）郡のCFの活動における問題点
- 2) CFがMadanpokhara VDC（マダン・ポカラ 村落開発委員会）の人々に与えた社会経済的な影響
- 3) 地域共同体が直面する問題への解決案、コミュニティ・フォレストリー活動に人々が積極的に参加することにより、CFから得られる利益を最大限にする方法の検証
- 4) 地域住民の年齢、性別、または教育水準の差異と、CFに対する意識の関

係性。

現地調査では、各世帯の代表者にアンケートの記入を依頼した。アンケート調査では、3つのCFUGにおいて、合計199世帯のデータを分析した。

第5章では、パルパ郡の地理的条件、土地利用状況、人口、宗教について論じ、パルパ郡の森林状況や、パルパ郡庁の森林部門の活動について述べた。さらに、コミュニティ・フォレストのユーザーグループについて言及した。

第6章では、調査対象地である3つのコミュニティ・フォレストが位置する地域について詳細に説明した。まず、地理的条件や気候的条件に言及し、さらに人口、経済、交通、電気、保健などのインフラ状況を述べた。さらに、カーストや社会団体などの社会構造、識字率などの教育状況、土地利用状況について言及した。最後に、3つのコミュニティ・フォレストに関して、設立年や規模、タイプなどを紹介した。

CFユーザーは、農業と畜産業を中心に生活している。彼らは伝統的な農法を実践している。主な収入源は、1) 農業、2) 畜産業、3) 海外への出稼ぎ、4) 公務員、会社員、その他である。

第7章では、調査結果の分析を行った。まず、アンケート結果から、対象である199世帯について、性別、年齢、カースト、職業、家屋、教育の側面から分析し、さらに家庭で使用される燃料や、薪収集の状況について分析した。また、ユーザーのコミュニティ・フォレストに対する認識や利用状況、実行委員会（コミュニティ・エクゼクティブ・メンバー）との関係性を分析した。さらに、ユーザーによるグループミーティングや、実行委員会が開催するミーティングへの、各ユーザーの参加頻度を、実行委員の参加頻度と比較した。また、コミュニティ・フォレストの活動について、参加頻度や問題点を検討し、さらに活動参加への制約となる教育的・経済的・職業的な諸条件や、各ユーザーの活動

参加へのモチベーションについて論じた。

次に、インタビュー結果を分析した。インタビューは、政治家や郡の森林部門職員、社会活動家など 11 人に実施した。インタビューでは、インタビュー対象者の所属するグループとコミュニティ・フォレストとの関係性や、コミュニティ・フォレストの現状に対する認識、活動への参加頻度を尋ねた。また、CF ユーザーからの活動報告の有無や、CF の資金管理の実態についても質問した。さらに、よりよいコミュニティ・フォレストを目指すための方策や、災害や貧困への対応策についても触れた。以上のインタビュー内容に関して、分析を行った。その結果は次章でまとめることにする。

第 8 章では、本研究の研究成果をまとめ、結論と将来への展望を述べた。そして、よりよいコミュニティ・フォレストのあり方を巡り、CF の運営方法について、筆者の考えを提示した。

CFUG のメンバーの多くは農業従事者であるが、家畜、外部労働、行政サービスなどによる他の収入がある者も多く、メンバー間で農業への依存度は異なっている。経済水準や家族の教育水準は、コミュニティフォレストへの依存度、管理方法に影響を与えており、経済水準の高い家族であるほど、コミュニティフォレストへの依存度は低い。彼らは社会的責任と決定権への強い影響力により、コミュニティフォレスト活動への参加は行っているが、コミュニティ外での雇用と出稼ぎによる現金収入が村内での農業を中心とした収入よりも大きく、村外での就労機会が増加傾向にあり、村外での活動が中心となるため、結果として、村内に留まる教育水準の高くない者、年輩者、女性等が森林の管理を行うという傾向もあらわれている。実際、一つのコミュニティ・フォレストでは、実行委員全員が女性であった。

また、CFUG のメンバーは森林資源の均等配分を受けているが、既に述べた通

り、森林資源への依存度はメンバー間で異なっており、結果的に、森林への依存度が低い富裕層に対しては過剰分配、依存度の高い貧困層に対しては過少分配となってしまうている。富裕層はLPガスやバイオガスを導入し、森林産品として重要な意味を持っていた薪を必要としなくなっているとともに、コンクリートやレンガ製の家屋に住むため、建築資材としての木材も余り必要としない。一方、貧困層は、薪集め、建築材としての木材の利用、飼料の収集、放牧など、森林への依存度は依然として高いのである。しかしながら、実行委員会の実際の運営では、森林への依存度が低い富裕層がより強い発言力を持っており、依存度の高い貧困層の森林保護や管理に関する活動への参加度は低いという結果になっている。

全体的に見れば、コミュニティ全体での森林資源への依存度は低下する傾向にあり、森林保護という観点からすると、コミュニティ・フォレストリーの導入は一定の役割を果たしていると評価できるが、実質的にはこの森林資源への依存度の低下が森林の拡大と森林資源の消費量の低下を招いているといえよう。

## 結論と提案

この調査結果は、コミュニティフォレストの) 管理と開発の様々な段階でユーザーグループメンバーの関与が異なっていることを示している。

CFUG のすべてのメンバーは、地域の森林に関する権利と責任を認識する必要がある。決定は、一部のメンバーの財政的または社会的権力に基づいて行われるべきではない。多くの場合、実行委員は、社会的・経済的地位の高い特定のグループの人のリーダーシップによって運営されており、実行委員会の<sup>けつてい</sup>決定の大部分が彼等の意向によって下されている。低層階級と少数民族の参加が法では定められているが、現場での実践は異なっているのである。

また、最近の経済的、社会的変化がネパール社会に大きな変化をもたらしてい

る。薪はLPガスやバイオガスに、建築用の木材はレンガやコンクリートによって取って代わられつつあり、村外での雇用収入等は増加しつつある。コミュニティのメンバー全員が等しく森林資源に依存し、その維持・管理を担うということを前提に数十年前に作られた規則は現在のネパール社会での変化には十分対応し切れていないといえよう。したがって、ネパールの森林の持続可能な開発のためには、古い法律の枠組みを修正する必要があるのである。例えば、林産物の配分は、均等配分ではなく家族へ必要性に基づいて行う方が良いのではないか。主なエネルギー源として薪を利用する家族は、LPガスまたはバイオガスを利用する家よりも多量の薪を得るべきであると考ええる。

#### **CFの今後の課題**

本研究はパルパ郡の個別事例研究であるため、本研究の成果がそのままネパール全体のCFに一般化されるわけではない。それを踏まえ、本研究では、観光資源としての価値が高い。しかし、いずれの研究もこの側面に焦点を当てていない。Palpaがエコツーリズムに関し、積極的な態度を示しているこれはMadanpokharaのコミュニティ・フォレストリーについて調べることが重要と言える。コミュニティフォレストに薬草を導入するという可能性についてである。今後の研究では、コミュニティフォレストの代替的な利益にも焦点を当てるべきである。なぜなら、エネルギー資源としてのコミュニティフォレストへの依存度は徐々に低下しているからである。このような方向性を拡大する事が必要であろう。